

〈論文〉

# 中世後期資料のトコロデに関する一考察 —意味派生と因果性の接続助詞化について—

三浦 さつき

## 1. はじめに

トコロは、モノヤコトと並んで形式名詞の中でも抽象度が高い。汎用性があり、助詞、助動詞を続けて接続助詞や接続詞として展開するなど、文法事項に深く関わる。日本語史では名詞から文法要素への体系的参与が見られることが知られる（宮地 2007）。特に形式名詞は、ヨウダやハズダ等の助動詞や、アイダ、ウチニ、タメニといった接続助詞としての使用が多くみられる。これらは歴史的变化の産物である。本稿は、場所を表す形式名詞トコロにデを組み合わせたトコロデを扱う。中でも中世後期で順接確定・因果性の表現を持つと言われるものを取り上げる。

「Tocorode（所で）は、Fodoni（程に）と同じく理由を示す。例へば、Sayoni v<sup>o</sup>xer<sup>a</sup>raruru tocorode mosarenu（さやうに仰せらるる所で申されぬ。）Nai tokorode xinjenu（ない所で進ぜぬ）、等。—後略—」

（『日本大文典』土井忠生訳 1604～1608 p.445）

中古のトコロ+ニテから転じたと考えられる中世後期のトコロデは、日本大文典の記述にもあるように、その時代のホドニ、ニヨツテと並び、現代語には存在しない「順接確定、因果性」の用法を持っていたとされ

る。トコロデという表現形式の中世後期における順接確定用法の出現は、順接条件文の歴史的体系変化に関わるものとなる。未然形+バが衰退した後の已然形+バにおける恒常性や、仮定用法の獲得と同時に、已然形+バの順接確定用法が衰退し、中世後期に新興の接続助詞が表れるという議論に関係する（阪倉 1958、1975、1993 小林賢次 1996）。中世後期のトコロデに関するこれまでの研究は、中古から中世後期における形式名詞トコロの意味派生や、それを踏まえた文の構造変化を中心的には取り上げて来なかった。また、接続助詞化の説明は存在するが、疑問が残るものとなる。形式名詞を含む接続助詞化の場合は、接続助詞のように見えても、名詞節である可能性を捨てきれない。歴史資料の言語は内省が利かないため、意味の面で観察し、できる限り証拠を挙げて示す必要がある。形式名詞トコロの場合は、対象となる形式名詞の意味自体が希薄であるところから機能語への変化を見ることになるため、対象が機能語化する以前に持つ意味から更に希薄になっている例を示す必要がある。そこで、本稿では次の2点を扱う。

1. 中古のトコロ+ニテの形から中世後期に至るまでの意味、構文の変化はどのようであったか。
2. 中世後期のトコロデで順接確定・因果性の文を為すとされているものは接続助詞化していると言えるか。

以下、2節で先行研究と問題点、3節でトコロの意味の認定方針を示す。4節で歴史的ながれを概観し、5節で中古から中世後期までの意味派生と構文の拡大を記述する。6節では接続助詞化しているか否かを論証し、7節でまとめを述べる。

## 2. 先行研究と問題点

中世後期のトコロデをホドニ、ニヨッテ、サカイニ等と並べて、必然確定の表現として研究史上、初めて指摘したのは阪倉（1958）である。その後の先行研究を以下で概観する。

## 2.1 小林千草 (1973、1994)

小林千草 (1973、1994) では、主に用例数の多いホドニ、ニヨッテの関係が検討され、トコロデ等その他少数例のものの実態も見えた。抄物においてトコロデはホドニ、ニヨッテと比べて少数であり、主に前接するのは動詞で、偶然確定から必然確定に移行している様子と指摘した。キリシタン資料の内、天草平家、伊曾保は抄物の性質を引き継ぎ偶然確定が多く見られるが、コリヤード懺悔録や狂言台本には完全に原因・理由となった例があり「ナイ、ヌ、チャ」を接した例をその確実なものとしている。しかし、その根拠は明示されていない。小林千草 (1973、1994) の調査では、前提として文の前句と後句の関係に因果性を持つことと接続助詞化が同一視されている。

## 2.2 西田 (1980)

小林千草 (1973、1994) を受けて西田 (1980) は『江湖風月集抄』におけるトコロデを観察して、時としての意味が見られるが、因果性の接続助詞化をしているとまでは言えないのではないかと述べた。しかし証明するところまでは至ることができなかつた。

## 2.3 李 (2000、2002)

李 (2000、2002) では、それまでの中世後期の順接確定トコロデの研究と趣を異にするアプローチを行った。南 (1974) の従属節の従属度の理論を用いてこれらを調査し、ユエニ、ニヨッテ、トコロデ、アイダをB類、ホドニをC類とした。中世後期において新興の接続辞類の従属度を扱った点で新規性が高く、これによりそれらの表現形式は接続助詞としての要素を持っていることが具体的に示されるところとなった。しかし、証明として盤石と言えるものではなかつた。

## 2.4 安 (2010)

安 (2010) は、中世後期のトコロデに前接する品詞にバラエティが見えることで、日本語学における文法化に当たる「複合辞化」を指摘し

た。これはホッパー&トラウゴット (2003) の再分析を経ての「一般化 (Generalization)」の説とも一致するところである。しかしトコロ+デはトコロが名詞としての意味を持つ場合も様々な品詞が前接する。複文的な構造になっても、トコロの名詞としての意味も読み取れる中で、それのみで根拠となり得るのか疑問である。

## 2.5 青木 (2010)

青木 (2010) では、名詞節が脱範疇化を起こして機能語となるものの一例として中世後期のトコロデを挙げている。連体節・名詞節としてのトコロ+デが、トコロ+デの後部に異なる主語を設けることを根拠としており、格助詞のガが準体句を受けるところから名詞節が脱範疇化して接続助詞のガが成立する様子と並べて紹介している。

- (1) a. 商シ棄テ返ケルニ、新羅ノ山ノ根ニ副テ漕行ケル程ニ、船ニ水ナド汲入レムトテ、[水ノ流レタル所<sub>[連体節]</sub>]ニテ船ヲ留メテ、人ヲ下シテ水ヲ汲スル程ニ、船ニ乗タル者一人舷 (ふなばた)ニ居テ海ヲ臨 (のぞき) ケルニ、山ノ影移タリ。

(今昔物語集 巻第 29・31 p 366)

- b. 然ればこの宝 (S1) は国王に捧げうずるものぢやと云うた (V1) <sub>[述語句]</sub> ところで、シャント (S2) 大きに驚いて (V2) …

(エソポのハブラス 青木 (2010) より引用 <sup>(1)</sup>)

(1a) は本稿が調査したトコロが場所を表す例である。(1b) の青木(2010) の例と対照すると、(1a) のトコロ+ニテの文が連体節となっており、(1b) の中世後期例では、トコロデを含む文の構造が「S1 ハ V1 <sub>[述語句]</sub> トコロデ S2 V2」となっている様子が伺える。しかし詳しく見ると、この例はトコロが時の意味を表すものとも考えられ、話者の主語表示がないものとすれば「この宝は国王に捧げうずるものじゃ」が引用節で、トコ

<sup>(1)</sup> (1b) の「この宝は」部分の「は」の傍点ならびに (S1) (V1) 等、文法構造の表示は私に付した。

ロデの前句と後句で異なる主語が表れるとしてもトコロは連体節を構成するものとも捉えられる。また、構造的にも「トコロ+断定助動詞ダの連用形デ」ではないことも排除できない。名詞節の文の構造変化の例として重要な指摘となるが、接続助詞と断言するには疑問が残る。トコロデの文の構造変化には、格助詞としてのデと断定助動詞ダの連用形デが関わっている可能性はないのだろうか。

以上、これまでの研究においてはトコロデの接続助詞化および、構造変化の説明には余地がある。

### 3 トコロの意味の認定方針

ここでは、本稿におけるトコロの意味の認定方針を記す。田窪・笹栗(2002)、田窪(2006、2018)では、場所を表す「～ノトコロ」は、「基準点に付いてそれが空間座標に占める位置を同定する要素である」と特徴づけられた。また、田窪(2006、2007)では、トコロは場所の場合、「動作が行われる場所」、「位置を表す場所」の両方が可能で、これらは「そこ」のような語句で明示的に同一指標を持つ句を示すことができ、基本的に関係節であるとしている。トコロは多義を持つ形式名詞であるため、文脈に依存的にその意味が決まるという点で、発生の制約を見出しにくい。そのため、意味の発生の条件を詳しく示した研究は存在しない。しかし、ある程度の制約と文脈の特徴は見いだせるため、ここでは著者の用例観察により案出した典型としての基準を示す。

#### 3.1 場所

「～の」「～という」等で連体修飾し、ある特定の空間を指し、述部に動作や変化を表す場合を「場所」と認定(例:ドアのところで立っている)。

#### 3.2 状況

連体修飾節部分が状態性を表し、特定の空間を示さない場合を状況と認定(例:静かなところで休もう。／人がいないところで話しかけないでください)。

### 3.3 時間

田窪（2006、2007）では、トコロは時間上のスケールにある場合には発話時ではなく参照時を表し、それが取る時間的關係は文脈における主題によって決まるとしている。本稿では、歴史的文献を見る上でより具体的に示したい。連体修飾部分が動作性を表し、後件でひとつの事態に変化を来している場合を時間と認定した。「もうちょっとの」「もうすこしの」のような、副詞に「の」を加えたり、「すんでの」の様な語の前に接して語彙的に表すこともできる（例：ごはんを食べ終えたところで、歯が欠けてしまった。 / すんでのところで店が閉まってしまった。）。

### 3.4 モノ・ヒト

楠木（2000）では、トコロが多義性を持つことを扱い、基本義から意味的に連鎖する派生義があるとした。基本義として「場所」があり、それが時空的・抽象的範囲を表す意味（榎山1989）となっていることを指摘する中で、時空的・抽象的範囲に派生する意味として「時／時点／面／点、もの、こと、場合、場面、程度／範囲等」の例を示している。

(2) その車はかつては金持ちしか持てなかったのだが、今では誰でも手に入るところとなった。（楠2000から引用）

(2) はモノを表す例と考えられる。古代語においてもこれと同じ意味を見出すことができる。典型的には「AハBトコロデ…」といった主題の「ハ」でAが示され、かつ形容詞や形容動詞といった状態性の品詞で修飾される（B部分）トコロは、モノやコト、人を表していることが多い。特にAがモノならモノを表し、人名ならヒトを表すことが多いが、文脈により例外もある。

### 3.5 コト

現代語例では以下のようなコトの例がある。

(3) うわさで聞いたところでは、彼女は裏で悪いことをしているそうだ。（楠2000から引用）

これも上記のモノと同様の基準で認定した。

#### 4. 歴史的流れ—トコロの名詞としての意味派生と構文のあり方—

ここでは結論先取的にトコロデにおけるトコロの意味派生の大筋と、構文の状況を示す。

[中古]

- ① トコロ + ニテの形として見られる。
- ② トコロの意味としては場所に加え、状況、数は少ないがヒトを表していると思われるものが見られる。
- ③ ニテには、格助詞のニテと、断定助動詞ナリの連用形ニと接続助詞テの組み合わせの2つがある。

[中世前期]

- ① 引き続きトコロ + ニテの形で出現する。トコロの意味としては場所、状況に加えて、時、コト、モノを表していると思われるものが見える。
- ② ニテは、格助詞ニテと断定助動詞ナリの連用形ニと接続助詞テの組み合わせの2つがある。

[中世後期]

- ① トコロニテからトコロデの形へ変化する。
- ② トコロデの連体節・名詞節から文構造が変化し、青木(2010)が指摘する「S1 V1 トコロデ S2 V2」の形が見える。これには「S1 ガ(ノ、φ) V1 トコロデ S2 V2」(あるいは「S1 ガ(ノ、φ) V1 トコロデ V2」)<sup>(2)</sup>の場合と、「S1 ハ V1 トコロデ S2 V2」の2種がある。
- ③ トコロデを挟む従属節相当と主節相当の關係に、契機性、継起性、事態的な因果性、根拠と話者の判断といった構成が見られる。
- ④ 中古、中世前期、近世、近代、現代には見られない、名詞述語(名詞 + ギャ・デア・ダ)が前接するトコロデが表れる。
- ⑤ 意味的にも、中世前期までに見られたトコロ、状況、ヒト、時、モノ、コトの意味とは確定できない例が表れる。

次の章から具体的な例を記述する。

<sup>(2)</sup> 以降、主語相当の名詞に後接する助詞がない場合を「φ」と表記する。

## 5. 中古から中世前期トコロニテトコロの意味派生と文構造の拡張—

形式名詞が名詞節から脱範疇化し機能語になる際、機能語化する以前の意味の拡がりが問題となる。トコロは場所をその意味の典型とするが、状況、ヒト、時、モノ、コト、と歴史的に派生していく様子を見る。ここでは、トコロニテ、トコロデにおけるトコロの意味の派生に特化して記述する。

### 5.1 中古トコロニテ

中古ではトコロは場所、状況、ヒト、中世前期ではモノ、コト相当と拡張していく様子が伺える。(4a)は場所、(4b)は状況、(4c)のように述部に不可能や自発が見られる場合はニテは因果性として訳すのが妥当と思われる。こうしたニテの因果性も文の構造の拡張の一助になっていると考える。(5)などは文脈の意味としてヒトを表していると考えられ、必然的にニテは断定助動詞ナリ連用形ニと助詞のテの解釈となる。以下、用例は私に表記を改めたものを示す。

- (4) a. むかし、あべのなかまろといひける人は、もろこしに渡りて、  
 帰り来ける時に、舟に乗るべきところにて かの国の人、馬  
 のはなむけし、わかれ惜しみて、かしこの唐歌などしける。

(土左 一月廿日 p.19)

- b. …臨時の祭りの弔客に 夜ふけて いみじう霏ふる夜 これ  
 かれ罷りあかる、所にておもひめぐらせば 猶ちと思はむ方  
 は又なかりけり (源氏 簞木 p.74)

- c. 例のわきたぎることも多かれど、程せばく、人騒がしきところにて息も糸せず、胸に手を置きたらんやうにて、あかしつ。

(かげろふ中：天禄二年二月～三月 p.163)

- (5) かの花散里も、あざやかに今めかしうなどは花やぎ給はぬ所にて  
 御目うつしこよなからぬに、咎多う隠れにけり

(源氏 蓬生 p.352)



(5) は、源氏がしばらく会わずに荒廃した末摘花の邸宅を背景に、花散里のことを記す場面である。日本古典文学大系の頭注には、あの花散里も「立派に目立つほどに当世風（現代風）であると言う様には、花やかにおやりなさらぬ所（地味な方）であるので」とあり、日本古典文学全集の訳にも「あの花散里も目立って当世風になど派手にはなさないお方なので、そちらにお目うつしになられたところで大差ないのだから…」とある。ここはトコロの場所の意味から派生したヒトの意味と捉えてよいものとする。

## 5.2 中世前期トコロニテ

中世前期になってから (6a) のように時を表すものが見える。(6b) はトコロが場所を表し、ニテは断定助動詞ナリの連用形ニと接続助詞テの組み合わせと考えられる。(6c) は、トコロニテハとハが接する例ではあるが、コトの意味を持つものとして重要であるため例を挙げた。(6d) などは、例示が先行し「銭といい、御米といい、残ってございませもので」と、トコロはモノ（＝米）を意味するものとも、「銭といい、御米といい、残ってございませ状況なので、と、この次官（すけ）の状況を意味するとも考えられ、判断しづらいところとなる。

- (6) a. 「此レヲ思フニ、其ノ檢非違使、極（きわめ）テ愚也ケル者也。  
極（いみじ）ク欲ク思フトモ、然カ追捕（ついぶ）セム所ニテ、  
糸ヲ取テ被見顕ル、極テ奇（あさまし）キ事也。」  
（今昔 卷第 29・16 p330）
- b. 「日本ノ国ト云ツルハ、此ハ何ナル所ニテ此ク遠氣（とおげ）  
ニハ云ナラン」  
（今昔 卷第 26・8 p35）
- c. 此軍ハ義仲ガ力ノ及ブ所ニテハアラザリケリ。  
（延慶本平家 第3末 p 39）
- d. いそぎ沙汰候べき事のやうに候あいだ、せいぜいの沙汰をいたせとて、下し遣わされ候、御つかひハ、その沙汰をすゝめ候はんためにて候、なに事も見ないで、彌藤二入道が沙汰

しとるところのせに（銭か）といひ、御米といひ、のこりて候はんするところにてこのすけの馬尻のかたへ、いそき／＼沙汰しわたされ候へく候也。

（鎌倉遺文 下総中山法華經寺所蔵秘書 7289）

トコロに前接する語の種類は中世前期の時点で動作性、状態性（静態動詞、形容詞、形容動詞）と範囲が広い様子が伺える。また文の構造も、繫辞を使って従属節末に現れるトコロが見られるが（6b）、いずれも未だトコロが名詞節の状態と考えられる。中古・中世前期資料で採取した用例を、トコロの派生義と、ニテが格助詞か、断定助動詞ナリの連用形ニ+接続助詞テであるかという観点で分類すると以下ようになる。

[表 1] 中古・中世前期トコロニテのトコロの意味と構文の分布

|      |       | 場所    |           |            |          | 場所<br>時間の<br>中割 | 状況   |            |          | 時間     | コト     | 人 | 人との<br>中間 | 状況の<br>中間<br>モノと | 不明   | 計      |
|------|-------|-------|-----------|------------|----------|-----------------|------|------------|----------|--------|--------|---|-----------|------------------|------|--------|
|      |       | 格助    | 格助<br>(回) | 断定<br>連用+テ | ニテ<br>アリ |                 | 格助   | 断定<br>連用+テ | ニテ<br>アリ |        |        |   |           |                  |      |        |
|      |       |       |           |            |          |                 |      |            |          |        |        |   |           |                  |      |        |
| 中古   | 土左    | 1     | —         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 1    |        |
|      | 伊勢    | 1     | —         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 1    |        |
|      | 古今    | 4     | —         | —          | —        | 2               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 6    |        |
|      | 蓬蓬    | 1     | —         | 1          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 2    |        |
|      | かり子   | 4     | 1         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 5    |        |
|      | 枕草子   | 8     | —         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 8    |        |
|      | 源氏    | 13    | 1         | —          | —        | —               | 1    | —          | —        | —      | 1      | — | —         | —                | 16   |        |
|      | 狭衣    | 4     | —         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 4    |        |
|      | 大鏡    | 2     | —         | 1          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 3    |        |
|      | 計     | 38    | 2         | 2          | —        | 2               | 1    | —          | —        | —      | 1      | — | —         | —                | 46   |        |
|      |       | (84%) | (4%)      | (4%)       | (4%)     | (2%)            | —    | —          | —        | —      | (2%)   | — | —         | (100%)           |      |        |
| 中世前期 | 今昔    | 1~5   | —         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 0    |        |
|      | 6~10  | —     | —         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 0    |        |
|      | 11~20 | 4     | —         | —          | —        | —               | 1    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 5    |        |
|      | 22~28 | 5     | 1         | 1          | —        | —               | 1    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 8    |        |
|      | 29~31 | 5     | —         | —          | —        | —               | 1    | —          | 3        | 1      | —      | — | —         | —                | 10   |        |
|      | 栄花物語  | 6     | —         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 6    |        |
|      | 保元物語  | 1     | —         | —          | 1        | —               | 1    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 3    |        |
|      | 平治物語  | 1     | —         | —          | —        | 1               | —    | —          | 1        | —      | —      | — | —         | —                | 3    |        |
|      | 延慶本平家 | 32    | —         | 8          | —        | 2               | 3    | —          | —        | —      | 1      | — | —         | —                | 46   |        |
|      | 寛一本平家 | 6     | —         | —          | —        | —               | —    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 6    |        |
|      | 義経記   | 8     | —         | 7          | —        | —               | 1    | —          | —        | —      | —      | — | —         | —                | 16   |        |
|      | 鎌倉遺文  | 16    | —         | —          | 17       | —               | 1    | —          | 3        | —      | 1      | — | 1         | 14               | 53   |        |
|      | 計     | 84    | 1         | 16         | 18       | 3               | 8    | 1          | 6        | 2      | 1      | — | 1         | 1                | 14   | 156    |
|      |       | (54%) | (0.6%)    | (10%)      | (12%)    | (2%)            | (5%) | (0.6%)     | (4%)     | (1.3%) | (0.6%) | — | (0.6%)    | (0.6%)           | (9%) | (100%) |

※「ニテアリ（断定）」は、中止法ではなく「ニテアレバ〜」の形でその後の文につながるものを掲げている。

今回の調査では、古今和歌集から場所と時間の中間の意味<sup>(3)</sup>、源氏物語頃から、トコロにはヒト相当の意味が出現することが見られる。中世前期になると、今昔物語集で時間と指摘できるもの、延慶本平家でコト相当、鎌倉遺文ではモノとも解釈できる例が見える。形式名詞としてのトコロの場合は田窪・笹栗(2002)の述べるように、場所の意味から拡張して時の意味を表す場合は全体における一点を特定する、という性質をもつ。モノや人にも意味が派生する指摘は楠(1999)にあり、田窪・笹栗(2002)、田窪(2006、2018)の時への拡張と同じ理屈で説明することが可能である。田窪・笹栗(2002)、田窪(2006、2018)では、場所を表す「～ノトコロ」は、「基準点に付いてそれが空間座標に占める位置を同定する要素である」と特徴づけられた。古代語においてもこの見方で考えると捉えやすく、意味の拡張も理解しやすい<sup>(4)</sup>。また表1において太線の四角で囲んだところはニテが断定助動詞ナリの連用形ニと接続助詞テの組み合わせと解釈できるものである。今回調査した中古資料では、全体の6%、また中世前期では全体の12.4%のニテがそれであると認定した。次章の中世後期においてもデが格助詞か断定助動詞であるかを調査しており、中古・中世前期のこのデータと後に対照する。

### 5.3 中世後期一文の構造変化期一

『応永本論語抄』では7例中6例がトコロニテで記されている。その中で1例のみトコロデの表記が見え(7a)、ニテはデへと転じている(此島1966)<sup>(5)</sup>。(7b)は、史記本文の訓読の「トキニ」に当たるところを「トコロデ」と解説しているものになる。「外羨門」というものの説明の後に「その外羨門を下すところデ」の部分でこの解説は切れている。この時代

<sup>(3)</sup> 場所と時間の中間の例文としては古今集の詞書部分に「むすびてお手のしづくににごる山の井の あかでも人に別れぬるかな 道にあへりける人のくるまに物をいひつきてわかれける所にてよめる」(古今和歌集 第八 離別歌 404)という例が見られる。別れた場所の地点か時点かを見定めることが難しく両義に捉えられる。

<sup>(4)</sup> 田窪・笹栗(2002) 田窪(2006、2018)は、トコロの多義に関し、場所、場面、時間のみを扱ったものとなる。

<sup>(5)</sup> (7a)の例は「大勢の中に」と格助詞ニの後にトコロデが見られるもので、「そこで」「その状況で」のようなトコロが語彙に指示性も併せ持っている様子が伺え、接続助詞的なものではない。

に時間性の意味で「トコロデ」が使われていることの好例とみる。中古から中世前期まで名詞節で存在していた「～トコロ+ニテ」は、文構造が変化し、前の文は一文として拡張し、時間の前後関係として後の文と構成される因果性や (8a)、事態の発生による変化という構成の因果性 (8b)、「雨が降らない」という現在の状態を根拠として判断を行う因果性 (8c)、事態が起きて知覚や心理に影響を与える因果性 (8d) などが見られる。(8a)などは、断定助動詞ダの連用形デによる中止法からの拡大にも捉えられる。もちろん、トコロが時間・状況の意味を持ち、デが格助詞と考えられるものも依然ある。恒常性 (阪倉 1958、1975、1993、小林 1996)・非特定性 (矢島 2013) と言われるものもある (9c) <sup>(6)</sup>。前田 (2009) によるいわゆる「根拠と判断」の構造 (8c) (9a, b) は、少数ではあるが抄物から見られる。『コリヤード懺悔録』から「普通名詞+チャ」に後接するトコロデが見られ、主節相当に意志、推量、命令表現が表れるようになる (9a)。

(7) a. 注連古一萃ハ聚也。大勢ノ中ニ處テ人ニカハリタル處ナキヲ云。

[その状況で、のような意] (論語 子罕第九 p390)

b. 閉<sub>トチテ</sub>中<sub>センヲ</sub>羨<sub>ク</sub>下<sub>ク</sub>羨<sub>トキニ</sub>門<sub>ヲ</sub> (読み下し：中羨を閉じて外羨門を下すときに) ……。

(解説部分) 中羨トハ棺椁 (かんかく) <sup>(7)</sup> ヲ置テ閉處ソ。其外ノ一重ヲ外羨門トハ云ソ。其外羨門ヲ下ス處テ (行替え) 盡閉一工匠ノ機蔵ヲツクリタル者ヲイ入テ閉

[時点] (史記桃源抄 秦始皇本紀 p427)

(8) a. ナゼニ瞽 (めしい) ハ樂ヲツカサドルト云ヘハ、目ノ不見者ハ性ガシヅマリテヨク音律ヲシルゾ。目ノアイタ者ハ見ルトトコロデマギレテ心カ散動スルホトニ、ヨウモ不知ソ  
[契機：知覚×心理] (史記桃源抄 周本紀 p156)

<sup>(6)</sup> 矢島 (2013) では、阪倉 (1958、1975、1993) 小林 (1996) で「已然形+バ」による順接確定条件文における「恒常性」の分析を時間性の基準で時間的に「非特定性」と捉えなおして用例分析を行った。

<sup>(7)</sup> 棺椁 (かんかく) …「死体をおさめる箱。ひつぎ。」(『日本国語大辞典 第二版』より)

- b. 其上へ春雨ガザツト降ツタ処テ。サキ乱タ花ナレバ。ハラリト落ル也。[因果:事態×事態] (中華若木詩抄:上 三十六オ)
- c. 雨ガフラス処デ。翁ガ後園ノ草木ガ。枯ル、ト云テ。起ツ居ツシテ。雨ヲ待ソ。

[根拠と話者の判断] (中華若木詩抄:中 十九オ)

- d. アド したたかな鳴りやうであつたところで胸がだだめいて心が落ち着かぬ

[事態性因果:状態×心理] (信光の能 道成寺 p137)

- (9) a. さらば、か様なる数々の深い科の御赦し、デウスの無量、広大、無辺の御慈悲の為にはいと易いことぢやところでその分心得あれ [根拠と話者の判断] (コリヤード懺悔録 p.59)
- b. 「いやさやうではござらぬ、常のお人なれば かやうには申ませぬが、こなたさへおぢさせらるところで中々身共をいけておかせられまひ程に…」

[根拠と話者の判断] (虎明狂言台本 はなご p.221)

- c. (法) あふ其子細は、春園に芋と云物をうゆる (植える) は (浄) あふそれは人ことにうゆるよ  
(法) うゆる所でそれよりあを / \ とした物が四五十あがるを則五十てん / \ のずいきとなつて、いかにもせいじん (精進) をさせすまひいて、刃物を以つてとつて…

[事態性因果:事態×事態・恒常性・非特定性]

(虎明本狂言 しょうろん p407)

(9b) は、夫が太郎冠者に山の神 (= 妻) が怖いか、と聞いており、夫は自分の代わりに太郎冠者に座禅をするようたのんでいるところで、「おぢさせらるる」が現在の状態で根拠となり、「身共を生けておかせられまひ程に…」と話者の判断を述べているものとなる。

中世後期の構文の拡張については「場所+格助詞」から拡張したものや、「断定助動詞ナリ連用形ニと接続助詞テの中止法」から拡張したのを特定することはできない。そこで、中世後期時点での構文的な特徴を

記述する。以下に中世後期のトコロデの構文の分布を表2で示す。「S1ハφ/V1トコロデ(S2)V2」という形のものをトコロ+断定助動詞ナリの変化後のダの連用形デ相当と明示できると考えてここではこのように分類しているが、それ以外の「S1(ガ・ノ・他)V1トコロデV2」や「S1(ガ・ノ・他)V1トコロデS2V2」のようなものが「断定助動詞ナリ連用形ニと接続助詞テの中止法」ではないということではない。表2では、「…ハ・φ トコロデ～」という構文が、全体から比べて2割であることが見える。「断定助動詞ナリ連用形ニと接続助詞テの中止法」と明示できる例は、中古では6%、中世前期では12.4%であったところから中世後期で割合としては20.5%と、劇的とは言えないが、着実に数が増えていることがわかる。

[表2] 中世後期トコロデの構文の分布

|        | S1(ハ・φ)V1<br>トコロデV2 | S1(ハ・φ)V1<br>トコロデS2V2 | S1(ガ・ノ・他)V1<br>トコロデV2 | S1(ガ・ノ・他)V1<br>トコロデS2V2 | その他        | 計              |
|--------|---------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|------------|----------------|
| 西<br>国 | 応永本論語抄              | —                     | —                     | —                       | 1          | 1              |
|        | 史記桃源抄               | 5                     | 2                     | 2                       | 3          | 28             |
|        | 瀧山聯句抄               | —                     | —                     | 2                       | 1          | 9              |
|        | 六物因抄                | —                     | —                     | —                       | —          | 2              |
|        | 中華若木詩抄              | —                     | —                     | 1                       | 14         | 2              |
|        | 句双紙抄                | —                     | —                     | —                       | —          | 3              |
|        | ヘイケ                 | 4                     | 14                    | 1                       | 33         | 21             |
|        | エソボ                 | 4                     | 19                    | 2                       | 8          | 11             |
|        | 懺悔録                 | 8                     | 4                     | 5                       | 5          | 13             |
|        | 虎明本狂言               | 7                     | 4                     | 30                      | 30         | 44             |
|        | 虎清本狂言               | —                     | 2                     | —                       | 3          | —              |
|        | 天理本                 | 1                     | —                     | 3                       | 9          | 1              |
|        | 計                   | 29(8%)                | 45(12.5%)             | 46(12.7%)               | 106(29.4%) | 135<br>(37.4%) |
|        | 74(20.5%)           |                       | 152(42.1%)            |                         |            |                |
| 東<br>国 | 人天眼目抄               | 1                     | 3                     | 4                       | 11         | 32             |
|        | 雑兵物語                | 12                    | 8                     | 21                      | 25         | 13             |
|        | 計                   | 13(10%)               | 11(8.5%)              | 25                      | 36         | 45             |

先にも述べたように青木(2010)では、トコロが場所から時間性へと意味変化することに伴い、脱範疇化することが述べられた。しかしトコロの場合はホドや間、クライといった形式名詞とは性質が若干異なり、接続する助辞の性質や使用状況に伴い、意味解釈の領域が広い。さらに、トコロデに関しては意味の派生によってデが

格助詞か断定助動詞ダの連用形デかといった語性も変わる。Ohori (2001) は、主要部内在型関係節的なトコロについて、その成立を史的に扱ったものである。トコロの意味変化、文法化についてはメタファーが働き、トコロによる焦点がシフトし、「人」、「物」の意味へのメトニミーも起きていると指摘する。菊田 (2009) では、主要部外在型関係節であるトコロ関係節は補文辞（ノ）の主要部内在型関係節とは異なり、トコロの語彙の文法化が進んでから主要部内在型関係節としての文法化が起こったとした。トコロデの史の変遷と中世後期における脱範疇化と言われるものにもトコロの特殊な特徴が影響を与えていたと見る。つまり、大きくはメタファーと捉えられる文法化は、トコロにおいては、文脈や統語的な環境によって細かなメトニミーとして意味の反映の働きも持っていることにより、構造変化が進むのではないだろうか。例えばトキニなどは意味拡大した末に文法化して接続助詞化などはしない訳だが、トコロやホドのように多義であることと、文末に位置しやすい断定助動詞との親和性があるデやニのような組み合わせでは、意味の拡張と共に構造変化を招きやすいことが考えられる。青木 (2010) では、「ものだ」「ことだ」のような現代語のモダリティ助動詞とされるものの成立過程について論じている。断定助動詞を伴うと、名詞節は脱範疇化し、機能語化を招きやすいことを指摘する。青木 (2010) は、トコロデに関して上記の説を適用していないが、トコロデの歴史的变化に関しても、この考え方が符合すると考える。加えて、その断定助動詞の使用を招くのはトコロが多義に派生しやすいという性質によるのではないだろうか。

## 6. 中世後期の問題－接続助詞化しているか否か－

### 6.1 因果性の確認

トコロデの接続助詞化を見る前に、中世後期のトコロデの前の文と後の文が因果性の構成をなしているか確認したい。文の前後関係としての因果性の証明は、三浦 (2015, 2016) による天草版平家とその原拠本の

調査を引用する<sup>(8)</sup>。

[表3] 天草版平家のトコロデに対応する原拠本(覚一・百二十句)例  
(三浦 2015、2016)

|       | 文の切れ目 | 已然形+バ | 間 | 名詞(場所)+格助詞 | 対応なし | 合計 |
|-------|-------|-------|---|------------|------|----|
| 覚一本   | 5     | 2     | 1 | 0          | 4    | 12 |
| 百二十句本 | 5     | 0     | 0 | 1          | 1    | 7  |

※百二十句本平家の句点相当の「・」を三浦(2015、2016)に従い「文の切れ目」とする。

### (I) 文の切れ目

- a. 爰ハ山モ高シ谷モ深シ・四方岩石ナリ・搦手輒(たやす)ク  
ハヨモ廻ラシ馬ノ草飼水ノ便トモニ善ゲナリ・馬休ントシテ  
大勢背山ノ中下居タル・木曾八幡ノ社領垣生庄陣取テキット  
四方ヲ見廻セバ… (百二十句本平家・巻七：六十二)
- b. 四方わ岩石ぢゃほどに搦手えもたやすうよまわらじ、馬の  
草飼い水の便りなどもよいほどに、ここに馬を休めうずると  
て、大勢みな山の中にくだっていられたところで木曾殿わ(は)  
八幡の社領の垣生の庄とゆう(いう)ところに、陣をとってき  
と四方を見渡せば… (天草平家・巻第三の3)

### (II) 已然形+バ

- a. 田にいくらもありける鴈ども、蘇武に見なれておそれざりけ  
れば、これはみな我古郷へかよふものぞかしとなつかしさに、  
おもふ事を一筆かいて、「相かまへて是漢王に奉れ」と云ひふ  
くめ、鴈の翅にむすび付てぞはなちける。  
(覚一平家巻第二：蘇武)
- b. 田にいくらあった鴈どもも蘇武に見馴れて恐れなんだところで、  
蘇武これわみなわが故郷え通うものぢゃとなつかしさに、思

<sup>(8)</sup> 三浦(2015、2016)は口頭発表資料及び修士論文であり、本稿はそれを大幅に修正している。



うことを一筆書いて、鴈のつばさに結びついて放いたに…。

(天草平家：巻第一の9)

### (Ⅲ) 間

- a. 殿下の御出ともいはず、一切下馬の礼儀に及ばず、かけやぶ(ッ)てとほらむとする間、くらはは闇し、つやノ入道の孫とも知らず、又少々は知れたれどもそら知らずして、資盛朝臣をはじめとして、侍ども皆馬よりと(ッ)て引きおとし、頗る恥辱に及びけり。

(覚一本平家 巻第一 殿下乗合 p.117)

- b. 召しつれた侍どももみな二十歳よりうちのわかい者どもなれば、礼儀骨法をわきまえた者わ一人もなく、関白殿の御出とも言わず、一切下馬の礼にもおよばず、駈けやぶって通ろうとするところで、暗さは暗し、しかしか入道の孫とも知らず、また少々は知ったれども、そら知らずして…。

(天草版平家 巻第一の2p.15)

表3に見えるように、覚一本、百二十句本ともに(Ⅰ)の句点相当の数が最も多い。ここで句点相当と呼ぶのは文と文の間の中央部分に黒点を打ってあるもののことである(※参照)。その表現法は出来事を繋げるといふより、話の区切れや時間的に並行する他の場面を表していたり、資料の性質上、会話が交替する場面を繋げている感がある。(Ⅰ)の句点相当に対応するトコロデの例、また(Ⅲ)の「間」に対応するトコロデの例については、いずれも時間性を表しているように見える。一方、(Ⅱ)の「已然形+バ」に対応するトコロデの例では、根拠と特定の対象への心理や感情、という意味的構成をなす部分にトコロデが訳出されているようにも取れる。天草版平家の原拠本における「間」や「已然形+バ」は、2つの資料を併せても15%ほどであり、中世後期のトコロデは因果性としては熟さず、繋ぎとしての表現形式の役割が主であったことが推測される。しかし、トコロデという表現形式は、

小林千草氏によるホドニやニヨツテの調査から比べると [小林千草 (1973) によれば、天草版ホドニが原拠本のバに対応：8 例 (12%)、同アイダ 8 例 (12%)、天草ニヨツテが原拠バに対応：35 例 (4.4%)、同アイダ：29 例 (0.2%) となる]、用例数は少ないが、割合としては順接確定の代替のものとして無視できないものと考えてる。

## 6.2 中世後期の接続助詞化

次に 5 章までの意味の派生を踏まえて、トコロデが接続助詞化しているか見ていく。中世後期のトコロデは青木 (2010) が指摘するように、トコロデが名詞節であったところから、トコロを含む名詞節が脱範疇化し、トコロデの後ろに異なる主語が来る構造へと構文的な変化を起こしている (10a)。しかし、このような構造で形式名詞と捉えられるものは近代にも見える (10b)。(「は」の上部に付した黒点は本稿の著者による。)

- (10) a. 然ればこの宝は國王に捧げうずるものぢやと云うたところで、  
シャント大きに驚いて…

(エソポのハブラス 青木 2010 より引用)

- b. 『起きてるのかい。』と、西宮は態と手荒く唐紙を開け、無遠慮に屏風の中を覗くと、平田は帯を締了 (しめおわ) らふとする所で、吉里は後から羽織を掛け、其手を男の肩から放し難そうに見えた。(今戸心中 1910 : 60N 今戸 1896\_11005)

(10b) は (10a) と同じ構造を見せる。つまり「A ハ」と主題が明示され、複文として主語が交替し、「トコロ+デ」は接続助詞としての条件をもつ。しかし、トコロの意味が時を表すものとも考えられ、構造的にも「トコロ+断定助動詞ダの連用形デ」ではないことを排除できない。例えば、現代語では (11a) のような、時を表すトコロとデが格助詞の組み合わせの場合で、トコロデの前の文と後の文で主語が交代しているものは、トコロの修飾部の主格をノ・ガ交替させることも可能でないことはない。そして (11a) の助詞をハに変えた (12) は「トコロ

+ 断定助動詞ダの連用形デ」と捉えることもできる<sup>(9)</sup>。[(11a) の丸括弧内の主語明示は本稿著者による]

(11) a. 浪松(が/?の/\*は)納得したところで(私が)帰ろうとしたら、  
須藤さんが「まだいいじゃないですか、お酒でも飲んでいって下さい」  
なんとなんと、ホントにお酒を用意してくれたのだ。

(とぎすまされた六感：2001：LBp3\_00062)

b. 「…年齢のこともありましたし、お金のなくなったところで、  
帰国しました」

(介護保険を動かす女たち 2001：LBp3\_00174)

(12) (その時)浪松は納得したところで、帰ろうとした。(作例)

(13) 男「これは妻に上げる上物のお土産だ」と言ったところで、それを  
売り込んだ商人は大いに喜んで… (作例)

(13) は、(10a) を現代語風に表してみたものだが、(10a) の「ハ」は引用節内にあるものであることが伺え、トコロデの前の文が主語を明示しない連体節である可能性もある。吉田(2000)では、中世後期の順接確定相当のホドニが、ホドの持っている名詞としての意味を脱する点を前接品詞の異なりから見出し、接続助詞化している例を指摘した。トコロデの場合はどうだろうか。そこで、本稿でも接続助詞化を判定するにあたって a トコロ+デの文が「S1 V1 トコロデ S2 V2」という文構造として拡大しているもの(=トコロデの前の文と後の文に主語の交替が見られるもの)、b トコロの意味が希薄になっているもの、の2点を設定した。しかしbに関し、3、4節で記したように、トコロの場合はホドと比べても名詞として派生する意味が多く、前接する品詞もバラエティが多い。そのためトコロ

<sup>(9)</sup> 尚、時を表すトコロ+格助詞のデでトコロ節が名詞節と考えられるのは次の例のような場合である。

「…年齢のこともありましたし、お金のなくなったところで、帰国しました」

(介護保険を動かす女たち 2001：LBp3\_00174)

が表す意味の範囲を超えたものを見出しにくい。トコロの意味は文脈から判断するしかないが、意味の判定の手がかりとして、前接品詞を参考にする。まず、aの「S1 V1トコロデ S2 V2」になっているもの」を選別するために先の表1を再掲し、当該箇所データを強調する。

[表4] 中世後期資料トコロデ文の主語交替例(表2の再掲)

|        |        | ①S1 (ハ・ホ) V1<br>トコロデ V2 | ②S1 (ハ・ホ) V1<br>トコロデ S2 V2 | ③S1 (ガ・ノ・他)<br>V1 トコロデ V2 | ④S1 (ガ・ノ・他) V1<br>トコロデ S2 V2 | その他 | 計   |
|--------|--------|-------------------------|----------------------------|---------------------------|------------------------------|-----|-----|
| 西<br>国 | 応永本論語抄 |                         |                            |                           |                              | 1   | 1   |
|        | 史記桃源抄  | 5                       | 2                          | 2                         | 3                            | 28  | 40  |
|        | 湯山聯句抄  |                         |                            | 2                         | 1                            | 9   | 12  |
|        | 六物図抄   |                         |                            |                           |                              | 2   | 2   |
|        | 中華若木詩抄 |                         |                            | 1                         | 14                           | 2   | 17  |
|        | 句双紙抄   |                         |                            |                           |                              | 3   | 3   |
|        | ヘイケ    | 4                       | 14                         | 1                         | 33                           | 21  | 73  |
|        | エソボ    | 4                       | 19                         | 2                         | 8                            | 11  | 44  |
|        | 懺悔録    | 8                       | 4                          | 5                         | 5                            | 13  | 35  |
|        | 虎明本狂言  | 7                       | 4                          | 30                        | 30                           | 44  | 115 |
|        | 虎清本狂言  |                         | 2                          |                           | 3                            |     | 5   |
| 天理本    | 1      |                         | 3                          | 9                         | 1                            | 14  |     |
| 計      | 29     | 45 (12.4%)              | 46                         | 106 (29.3%)               | 135                          | 361 |     |
| 東<br>国 | 人天眼目抄  | 1                       | 3                          | 4                         | 11                           | 32  | 51  |
|        | 雑兵物語   | 12                      | 8                          | 21                        | 25                           | 13  | 79  |
|        | 計      | 13                      | 11 (8.5%)                  | 25                        | 36 (27.7%)                   | 45  | 130 |

全体から見て、分析項目②④のように主語が交替している例は、西国資料で4割強、東国資料で3割強であることが分かる。次にトコロデが前接する品詞のバラエティが多いこと、また拡大する意味が多岐にわたることから、前接品詞と意味で分類した表を示す(表5～9)。例えば「S1 が～行ったトコロデ、S2 がやってくる…」といった文では、動作動詞の「行く」+助動詞「た」により、典型的には時間性を表すと考えられる。しかしトコロの場合には文脈によっては前接するのが動詞タ形であるからといって、必ず時の意味を表すのではない。場所の意味を表す場合もある。場所の意味の場合は「私がご飯を食べたところで、猫が寝ている」のように、トコロデ後部の主節相当に現れる文が状態性になる、という特徴がある。こうした統語的特徴を踏まえて中古から現代までを調査したところ、中世後期のトコロデに前接する形式には他の時代とは異なるものが見られた。中世後期にのみ「名詞

+チャ・デア・ダ」の名詞述語相当が見られる<sup>(10)</sup>。下のような例はトコロの意味自体を他の前接形式のものよりもより判定しづらいものとなる。「S1ハ V1トコロデS2 V2」と、トコロの前の文が主題のハで提示される場合、現代語では受容できない文構造となるが、中世後期には存在する。表5～9では3節の基準に従ってトコロの意味と共に前接品詞を調査したものである。文が複文的になっていて、トコロデが文中にあり、かつトコロの意味が明示的に判定できないものについては仮に「意味判定不能」としている。意味判定不能とした例は次のようなものである。

- (14) (数え手) やれ / \ ようこそおりゃったれ、教へてやらうが、さりながら身共もむつかしい事じゃところでそらには覚ぬ。書き記ひた物が有。みて参らふ。 (虎明：はうちゅう聲 p346)
- (15) 座禅は座禅ぶすまをかついて、来しかた行すゑ(末)をあんずる事じゃところで手間がいるといふ (虎明：はなご p209)

(14) は、婿入りの作法を尋ねられた者が、婿になったばかりの者に作法書と偽るものを伝授する場面で文の前後関係としては「むずかしいことだから、そらんじていない」と因果性で訳すことができる。この「とと」の表す「と」は、文脈からも空間的な場所ではない。「名詞+チャ」が前接している点で状況や時間性でもない。中世後期までに出現した意味をあてはめることが難しいものとなる。(15) も同様である。中世後期では「名詞+ダ」相当(名詞+チャ・デア等含む)に後接するトコロの意味は、「意味判定不能」(表6、7、8)に当たるものばかりが見られる。また、トコロデが「名詞+チャ(ダ・デア等)」相当(名詞+ダ)と接する例は全時代を通して中世後期にしか見られないことが分かる。

<sup>(10)</sup> 小林千草(1973、1994)でも扱っているところであるが、その根拠は記されていない。

[表5] 中古・中世前期トコロデ前接品詞

※上段で中古資料を、下段で中世前期資料を示している。各資料の詳細は末尾の資料欄に記す。

|     | N<br>#<br>ノ・<br>トイウ | 動作・変化補助動詞<br>(動・尊敬補助動詞)<br>動作・変化補助動詞 | 存在詞<br>ヌ・ツツ | タリ | キ | ケリ | ル<br>(受身・自発) | ム | ムズ | ベシ | マジ | 名詞ナシ<br>(否定) | 名詞ナラス | 動詞エ | 形容詞エ<br>(形容動詞) | 数詞 | 指示詞<br>(連体詞) | 形容詞 | 形容動詞 | 不定語ナリ | 名詞ナリ | 不明 | 計   |
|-----|---------------------|--------------------------------------|-------------|----|---|----|--------------|---|----|----|----|--------------|-------|-----|----------------|----|--------------|-----|------|-------|------|----|-----|
| 場所  | 20                  | 2                                    |             | 3  | 3 | 2  |              |   |    | 2  | 2  | 1            | 2     |     |                |    |              | 6   |      |       |      |    | 43  |
| 場時中 | 59                  | 3                                    |             | 9  | 3 | 4  |              | 5 | 1  | 3  |    | 2            | 1     | 1   |                |    | 4            | 7   | 1    |       |      | 1  | 104 |
| 状況  |                     | 1                                    |             |    |   | 1  |              |   |    |    |    |              |       |     |                |    |              |     |      |       |      |    | 2   |
| 時   |                     | 3                                    | 1           | 1  |   |    | 1            | 3 |    | 1  | 1  |              | 1     | 1   |                |    |              | 2   |      |       |      |    | 14  |
| コト  |                     | 1                                    |             |    |   |    |              | 1 |    |    |    |              |       |     |                |    |              |     |      |       |      |    | 2   |
| ヒト  |                     | 1                                    |             |    |   |    |              |   |    |    |    |              |       |     | 1              |    |              |     |      |       |      |    | 1   |
| モノ  |                     |                                      |             |    |   |    |              |   | 1  |    |    |              |       |     |                |    |              |     |      |       |      |    | 1   |
| 不明  |                     |                                      |             |    |   |    |              |   |    |    |    |              |       |     |                |    |              |     |      |       |      | 10 | 10  |

[表6] 中世後期資料(西国抄物、キリシタン、狂言台本、東国資料)前接品詞

※表6の中世後期資料の表については上段が西国抄物の用例数、2段目丸括弧内がキリシタン、3段目の角括弧内が狂言台本資料、4段目の数字が東国資料(人天眼目抄・東大本、雑兵物語)の用例数にあたる。対象資料については終頁「調査資料」覧に記した。

|      | 指示詞<br>(連体詞) | 動作・変化補助動詞<br>(動・尊敬補助動詞)<br>動作・変化補助動詞 | 動作・変化補助動詞<br>(動・尊敬補助動詞)<br>動作・変化補助動詞 | 存在詞<br>ヌ・ツツ            | 存在詞<br>タリ     | 存在詞<br>キ              | 存在詞<br>ケリ | 存在詞<br>ル<br>(受身・自発) | 存在詞<br>ム | 存在詞<br>ムズ  | 存在詞<br>ベシ | 存在詞<br>マジ | 存在詞<br>名詞ナシ<br>(否定) | 存在詞<br>名詞ナラス | 存在詞<br>動詞エ | 存在詞<br>形容詞エ<br>(形容動詞) | 存在詞<br>数詞 | 存在詞<br>指示詞<br>(連体詞) | 存在詞<br>形容詞 | 存在詞<br>形容動詞 | 存在詞<br>不定語ナリ | 存在詞<br>名詞ナリ | 存在詞<br>不明 | 存在詞<br>計                         |
|------|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------|---------------|-----------------------|-----------|---------------------|----------|------------|-----------|-----------|---------------------|--------------|------------|-----------------------|-----------|---------------------|------------|-------------|--------------|-------------|-----------|----------------------------------|
| 場所   | 1<br>(2)     | 23<br>(4)<br>(4)<br>3                | 7<br>(1)<br>1                        | 5<br>(1)               |               |                       |           | 1                   |          | 1<br>(4)   | 3         |           |                     |              |            |                       |           |                     | 1<br>(1)   |             |              |             |           | 40<br>(1)<br>(1)<br>7            |
| 状況   | (1)          | 4<br>(6)<br>(5)<br>1                 | 3<br>(7)                             | (1)                    | (1)           | 2<br>(1)              |           |                     | 1<br>(1) | [7]<br>1   | 1         | 1         |                     |              |            |                       |           |                     | 1<br>(1)   |             | 2            |             |           | 14<br>(6)<br>(5)<br>20           |
| 時間   |              | 3<br>1                               | 1<br>(6)                             |                        |               |                       | (1)       |                     |          | [1]<br>1   |           | 1         |                     |              |            |                       |           |                     |            |             |              |             |           | [3]<br>4                         |
| 程度   |              |                                      |                                      |                        |               |                       |           |                     |          |            |           |           |                     |              |            |                       |           |                     |            |             |              |             |           |                                  |
| トコロ  |              | 1                                    | 1<br>(2)<br>(4)<br>1                 |                        |               |                       |           |                     |          |            |           |           |                     |              |            |                       |           |                     |            |             |              |             |           | 2<br>(5)<br>(4)<br>1<br>3<br>(1) |
| 初級等  |              | 1                                    | 1                                    | 2<br>(1)               |               |                       | (1)       |                     |          |            |           |           |                     |              |            |                       |           |                     |            |             |              |             |           |                                  |
| 判定不明 |              | 1<br>(2)<br>8                        | 12<br>(7)<br>(4)<br>18               | 3<br>(38)<br>(1)<br>26 | 2<br>(1)<br>6 | 4<br>(2)<br>(5)<br>11 | (9)       | (1)<br>(5)          | 1<br>(3) | (2)<br>(5) | [1]<br>1  | 3         | [2]<br>2            | [3]<br>3     | [1]<br>5   | [1]<br>1              |           |                     | 1<br>(1)   | 1<br>(4)    | 2            | 1           | 4<br>(1)  | 24<br>(8)<br>(5)<br>20<br>93     |
| 不明   |              |                                      |                                      | (1)                    |               |                       |           |                     |          |            |           |           |                     |              |            |                       |           |                     |            |             |              |             |           | (1)                              |

[表 7] 近世・近代上方トコロデ前接品詞 (下段: 近代落語速記資料)

※上段で近世上方資料を、下段で近代上方前期資料を示している。各資料の詳細は末尾の資料欄に記す。

|          | 指示詞(連体形) | 名詞 | N+ノ・ガ・トイ<br>ウ(の)助詞等 | V+トイ<br>トアル | 補助動<br>助動変化V(尊) | 動作・変化V(尊) | 存在動 | 存在動 | 動詞・存在動否定 | 動詞・存在動否定 | V+テアル・<br>テイル | V+テアッタ等 | 非連続助動(ハ) | 推定・比況・<br>非連続助動 | 受身・使役・尊敬 | 受身・使役・尊敬 | 受身・使役・尊敬 | 受身・使役・尊敬 | 受身・使役・尊敬 | 名詞+否定 | 形容詞 | 形容動詞 | 名詞+タ | 計  |
|----------|----------|----|---------------------|-------------|-----------------|-----------|-----|-----|----------|----------|---------------|---------|----------|-----------------|----------|----------|----------|----------|----------|-------|-----|------|------|----|
| 場所       | 6        | 15 | 1                   | 3           | 4               | 4         |     |     |          |          | 1             |         | 2        |                 |          |          |          |          |          |       | 2   | 4    | 1    | 43 |
| 状況       | 1        | 1  |                     | 2           | 5               |           |     | 1   | 2        |          | 2             | 1       |          |                 |          |          |          |          |          | 1     | 7   |      |      | 13 |
| 状況<br>時間 |          |    |                     | 1           |                 | 1         |     |     |          |          |               |         |          |                 |          |          |          |          |          |       |     |      |      | 1  |
| 時        |          |    |                     |             |                 |           |     |     |          |          |               |         |          |                 |          |          |          |          |          |       |     |      |      | 1  |
| 程度       |          |    |                     |             |                 |           |     |     |          |          |               |         |          |                 |          |          |          |          |          |       |     |      |      |    |
| コト<br>人  |          | 2  |                     | 3           |                 |           |     |     |          |          |               |         |          |                 | 1        |          |          |          |          |       | 1   |      | 1    | 8  |
| 判定<br>不能 |          |    |                     |             |                 |           | 1   |     |          |          |               |         |          |                 |          |          |          |          |          |       | 1   |      | 2    | 4  |
|          |          |    |                     |             |                 |           | 3   |     |          |          |               |         |          |                 |          |          |          |          |          |       |     |      |      | 3  |

[表 8] 近世・近代江戸トコロデ前接品詞 (下段: CHJ 明治大正小説コーパス)

※上段で近世江戸資料を、下段で近代東京資料を示している。各資料の詳細は末尾の資料欄に記す。

|           | 指示詞(連体形) | 名詞 | N+ノ・ガ・トイウ<br>(つぎ)助詞等 | V+トイウ<br>トアル | 助動<br>助動変化V(尊) | 動作・変化V(尊) | 助動<br>助動変化V(尊) | 存在動 | 存在動 | 動詞・存在動否定 | 動詞・存在動否定 | V+テアル・<br>テイル | V+テアッタ等 | 推定・比況・<br>非連続助動(ハ) | 受身・使役・尊敬 | 受身・使役・尊敬 | 受身・使役・尊敬 | 受身・使役・尊敬 | 受身・使役・尊敬 | 名詞+否定 | 形容詞 | 形容動詞 | 名詞+タ | 計  |
|-----------|----------|----|----------------------|--------------|----------------|-----------|----------------|-----|-----|----------|----------|---------------|---------|--------------------|----------|----------|----------|----------|----------|-------|-----|------|------|----|
| 場所        | 16       | 7  | 23                   | 4            | 4              | 4         | 3              |     |     | 1        |          |               |         | 1                  |          |          |          |          | 2        | 14    |     | 15   |      | 94 |
| 状況        | 12       | 1  | 16                   | 3            | 5              | 5         | 2              |     |     | 1        |          | 1             | 3       | 2                  | 1        |          |          |          | 1        | 7     | 17  | 2    |      | 54 |
| 状況<br>時間  | 3        |    | 3                    |              | 15             | 1         |                |     |     | 1        |          |               |         |                    |          |          |          |          |          |       |     | 6    |      | 52 |
| 間<br>時間   | 1        |    | 2                    |              | 4              | 6         | 3              | 1   |     | 5        |          | 1             |         |                    |          |          |          |          |          |       | 1   |      |      | 21 |
| 時         |          |    | 2                    |              | 1              | 2         | 6              |     | 2   |          |          | 1             |         |                    |          |          |          |          |          |       | 2   |      |      | 14 |
| ル<br>スケール |          |    | 2                    |              | 2              | 2         | 17             |     |     |          |          |               |         |                    |          | 1        |          |          |          |       |     | 1    |      | 24 |
| コト<br>人   | 1        |    | 1                    |              | 1              | 1         |                |     |     | 1        |          | 1             |         |                    |          | 2        |          | 1        | 2        |       |     |      |      | 6  |
| 判定<br>不能  |          |    |                      |              | 2              | 6         |                |     |     |          |          | 1             |         |                    |          |          |          |          |          |       |     |      |      | 9  |
|           |          |    |                      |              |                |           | 16             |     |     |          |          |               |         |                    |          |          |          |          |          |       |     |      |      | 16 |

[表 9] 現代語トコロデ前接品詞

(BCCWJ2000年代 1180例：2019年10月、2021年5月確認)

|      | ついで(ついで) | 知覚・変化・心理<br>(も・継続) | 動作・変化・心理<br>(多形) | 状態・存在<br>(も) | 状態・存在<br>(多形) | 助動詞・使役 | 助動詞・比況 | 懸望助動詞 | 動詞・否定<br>(多形) | 名詞・否定<br>(多形) | 連体詞 | 不定語 | 形容詞<br>(多形) | 形容動詞 | 名詞+タ(デアル) |   |
|------|----------|--------------------|------------------|--------------|---------------|--------|--------|-------|---------------|---------------|-----|-----|-------------|------|-----------|---|
| 場所   | ○        | ○                  | ○                | ○            | ○             | ○      | ○      | ○     | ○             | ○             | ○   | ○   | ○           | ○    | ○         | — |
| 状況   | ○        | ○                  | ○                | ○            | —             | —      | —      | ○     | ○             | ○             | ○   | —   | ○           | ○    | ○         | — |
| 時間   | ○        | ○                  | ○                | —            | —             | —      | —      | —     | —             | —             | —   | —   | —           | —    | —         | — |
| ステージ | ○        | —                  | —                | —            | —             | —      | —      | ○     | ○             | —             | —   | —   | —           | —    | —         | — |
| モノ   | ○        | ○                  | —                | —            | —             | —      | —      | ○     | —             | —             | —   | —   | —           | ○    | ○         | — |
| コト   | ○        | ○                  | ○                | —            | —             | —      | ○      | ○     | ○             | ○             | ○   | —   | ○           | ○    | ○         | — |
| ヒト   | —        | ○                  | ○                | ○            | ○             | —      | —      | —     | —             | —             | —   | —   | —           | —    | —         | — |

「名詞+チャ(デア・デアッタ)」が接し、トコロの意味が判定しづらい例には、早いもので『懺悔録(コリヤード)』が挙げられる。

- (16) a. […夫のある女、別して態と子を墮ろし、踏み殺す等は情ない、慈悲も見知らぬ心の証であ〔述語句〕 ところで]、今より後、御計らひに任せて仮令飢ゑても、二度さう致すまいと思ひ定めあれ。

(コリヤード懺悔録 1632 p.61)

- b. また人の互ひの仲を違はせたこと、天狗の役に似た為深い科でおちゃったところで、今より後さうせいで、前の仲をば力の及び才覚して、直さる様にさせられよ。

(コリヤード懺悔録 1632 p.62)

(16) はいずれも場所の意味は取れず、状況、ヒト、モノ、コト等については解釈しようと思えばできるがそれらより、更に希薄になっていることが考えられる。時としての解釈も難しい。「慈悲もみ知らぬ心の証である」の主題が「踏み殺す」という出来事であると取れる。加えて前に接する品詞も「普通名詞+チャ」であり他の時代と異なりが出ている。また(16b)などは、トコロの前の文が「～ハ…」といった提題のハの文ではないが、主節に命令表現が見え、トコロデの後の文の主語も異なるものになっている。

こうした「AはBトコロデC」という構造において、Cの主節相当



の部分は、現代語の場所の意味のトコロであっても行為要求表現が適合しづらい。(17b)は、全く意味が通じない訳ではないが、自然なものとは言い難い。

- (17) a. 日光は風光明媚なところで、観光客が多いです。  
 b.?? 日光は風光明媚なところで、是非一度来てください。(作例)

これらのことから、文構造的にも、トコロの意味の希薄さや、それを裏付ける前接品詞が他の時代と異なっているという点でも(16ab)を接続助詞化の例と考える。現代語の表9を見ても、トコロデには意味に関わらず「名詞+ダ(デアル)」の接する例がないことが分かる。中世後期の因果性の接続助詞と言われるホドニ、ニヨツテにも同様に「名詞+ヂャ」が接する(吉田2000)。ホドニについても現代語では、「名詞+ダ」の前接を許容しにくい<sup>(11)</sup>。

- (18) a. 佐藤さんほどに頑張れたらいいなあ… (作例)。  
 b. \*佐藤さんであるほどに頑張れたらいいなあ… (作例)。  
 c. 「救われる」ということが問題であるほどに、現在は世界が歪んでいる。

(BCCWJ2002『鈴木大拙とは誰か』PB21\_00108)

(18c)はBCCWJの全データ中1例見つかった「名詞+ダ(デアル)+ホドニ」例であるが、「問題」という名詞自体は「問題な」とも言い換えることができ、「佐藤さん」のような固有名詞とは性質が異なり、形容動詞的な程度性を持ち合わせているものと考えられる。トコロの場

<sup>(11)</sup> 表5の中古では場所、表7の近世上方ではヒト相当と意味を取ることができるものがある。近世上方の表8にも「名詞+ヂャ」の承接例が2例存在する。表5の中古のトコロニテの2例においては「名詞+ナリ」の前接する例は見られるが、その内1例は底本の怪しまれる『落窪物語』の例でもあり、2例ともトコロは場所の意味が明確なもので、「ナリ」は存在を表すと考えるのが妥当と思われる。近世上方の1例も場所、もう1例は人として捉えられるものとなり、これらはいずれも今まで出現して来た意味を持っている。

合も同様の状況と考える。数として勢力のあるホドニやニヨッテから類推する形で、トコロデにも名詞述語である「名詞+ヂャ」へ前接する品詞の拡張がされたと見る。加えて「名詞+ヂャ(ダ)」が前接する場合は、「AハBヂャトコロデC」という、AとBが等価である、またはAの内容はBであることを説明する文脈においては、トコロの、ある集合の中の一点を同定する、という機能からは外れることにもなると考える。菊田(2007)が述べるように「両義性のある文脈で新しい意味用法が十分に確立し、両義的でない文脈にまでそれが広がる必要がある」を再分析の条件とすれば、中世前期まで見られなかった因果性の意味として中世後期で十分に発達した中で、時間的なトコロとして解釈できず前接品詞に関しては逸脱し、「名詞+ヂャ」に接し、かつ主語が交代している(16)のような例は、トコロデが脱範疇化し、機能語化・接続助詞化した例として十分に指摘できると考える。

## 7. まとめ

トコロデの史的変遷の中で明示的に機能語化・接続助詞化が指摘できるのは中世後期のコリヤード『懺悔録』の例である。

形式名詞の機能語化の証明をするには、既に意味の薄い形式名詞が持つ全ての意味から希薄になるものを探さなければならない。中古のトコロ+ニテから調査した結果、トコロ+ニテのトコロは中古から場所、状況、ヒト、時間、コト、モノ、と意味を派生させ、ニテは格助詞の場合と、断定助動詞ナリの連用形ニと接続助詞テの組み合わせの構文が存在し、トコロの意味の派生がトコロデの構文の変化に影響することを指摘した。トコロ+断定助動詞ナリの連用形ニとテの構文は、トコロがヒト、コト、モノの場合は必須のものとなる。トコロデを接続助詞・機能語として特定できるのはトコロの意味が既に出現している場所、状況、ヒト、時間、コト、モノの意味よりも更に希薄になるものと考えられる。「名詞+ヂャ(ダ)」が「トコロデ」の前に接するものであると考える。「名詞+ヂャ(ダ)」がトコロデの前に接するのは全時代の調査において中世後期のみであり、その点で他の時代との異なりが見られる。先に示し

たような形式名詞としてのトコロの多様な意味は、ある集合の中の一点を特定すると一般化できるが、「名詞+チャ(ダ)」が前接し、「AハBチャトコロデC」という、AとBが等価である、またはAの内容はBであることを説明する文脈においては、トコロのある集合の中の一点を同定する、という機能からは外れることになり、これをもって接続助詞化と考えた。トコロデが因果性の表現を持つ接続助詞へ発達したのは、トコロから派生した時間の意味だけではなく、その他の多種の意味により、断定助動詞相当のもの(ニテ、デ)を要請する性質を持っていることも要因となっている、と考える。

### 〔使用資料〕

○辞書類：ロドリゲス『日本大文典』土井忠生訳 三省堂 ○中古：『土左日記本文及び総索引』笠間書院／『古今和歌集』日本古典文学大系、岩波書店／『かげろふ日記総索引』(所収本文による)風間書房／『宇津保物語 本文と索引』宇津保物語研究会編 笠間書院／『枕草子 本文及び総索引』(三巻本)和泉書院／伊勢物語、落窪物語、狭衣物語、以上、『日本古典文学大系』岩波書店(国文学研究資料館日本古典文学大系本文データベース)／源氏物語『新編日本古典文学全集』小学館 ○中世前期：保元物語、平治物語、義経記、以上『日本古典文学大系』岩波書店／『延慶本平家物語本文篇』勉誠出版／『平家物語(覚一本)』日本古典文学大系、岩波書店／『平家物語：百二十句本』(慶應大学附属研究所斯道文庫編 汲古書院)／『今昔物語』新日本古典文学大系 岩波書店 ○中世後期西国：『抄物大系 応永二十七年本論語抄』東山御文庫蔵称光天皇辰韓 勉誠社／『史記桃源抄の研究』日本学術振興会・丸善／『句双紙抄総索引』清文堂出版／『永正本 六物因抄並解説・索引』非売品／『中華若木詩抄(寛永版)』笠間書院／『中華若木詩抄文節索引(上・中・下)』笠間書院／『湯山聯句抄本文と総索引』清文堂出版／『天草版平家物語 対照本文及び総索引』明治書院／『エソポのハプラス 本文と総索引』清文堂出版／『懺悔録』コリヤード著 風間書房／『大蔵虎明本狂言集の研究 本文篇上・中・下』表現社／『天正狂言本・虎清狂言本』わんや書店／『狂言六義全注』勉誠社 ○中世後期東国：『抄物大系人天眼目抄』勉誠社／『雑兵物語研究と総索引』武蔵野書院 ○近世前期上方：国立国語研究所(村山実和

子ほか) 編 (2019) 『日本語歴史コーパス 江戸時代編 I 洒落本』大阪・京都版 <https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/edo.html#share> (Ver.1.0) (2021年5月24日確認) / 『洒落本大成』中央公論社 / 国文学研究資料館「喃本大系本文データベース」[http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta\\_pub/CsvSearch.cgi/](http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/CsvSearch.cgi/) 『喃本大系』東京堂出版 (近世後期も含む) / 国立国語研究所 (2020) 『日本語歴史コーパス 江戸時代編 III 近松浄瑠璃』<https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/edo.html#chikamatsu> (2021年5月24日確認) ○近世後期江戸: 国立国語研究所 (2019) 『日本語歴史コーパス 江戸時代編 洒落本』<https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/edo.html#share> (2021年5月24日確認) 江戸版 / 国立国語研究所 (2019) 『日本語歴史コーパス 江戸時代編 II 人情本』<https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/edo.html#ninjo> (2021年5月24日確認) / ○近代上方: 『流行速記の花』所収・流行速記の花 (1889 明治 22) 芝浜の革財布 (1889 明治 22) 『嘶の種』所収・曾呂利茶室落語 1891 明治 24 『速記の花』所収・襦袢錦 1892 明治 25・百年目 1892 明治 25・幻物語 1892 明治 25 / 以上国立国会図書館デジタルアーカイブ / 国立国語研究所 (2022) 『日本語歴史コーパス 明治・大正編 VI 落語 SP 盤』大阪版 [https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/meiji\\_taisho.html#rakugo](https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/meiji_taisho.html#rakugo) (2023年7月23日確認) ○近代東京: 国立国語研究所 (高橋雄太・服部紀子ほか) 編 (2021) 『日本語歴史コーパス 明治・大正編 IV 近代小説』(短単位データ 1.0、中納言バージョン 2.5.2) [https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/meiji\\_taisho.html#shosetsu](https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/meiji_taisho.html#shosetsu) (2021年5月24日確認) ○現代語: BCCWJ2000年代: 2019年10月、2021年5月24日確認 / 国立国語研究所 (2022) 『日本語歴史コーパス 明治・大正編 VI 落語 SP 盤』東京版 [https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/meiji\\_taisho.html#rakugo](https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/meiji_taisho.html#rakugo) (2023年7月23日確認)

## [参考文献]

- 青木博史 (2010) 「名詞の機能語化—形式名詞を中心に—」『日本語学』29-11
- 安志英 (2010) 「複合辞の史的 연구」立教大学大学院文学研究科 博士学位論文
- Ohori, Toshio (2001) “Clause integration as grammaticalization: a case from Japanese tokoro-complements” In Horie, Kaoru and Sato, Shigeru (eds.) *Cognitive-Functional Linguistics in an East Asian Context*. Tokyo: Kuroshio. 279-301.
- 菊田千春 (2009) 「文法化としてのトコロ関係節の成立—主要部内在型関係節

- との比較から見えるもの—』『同志社大学英語英文学研究』84
- 楠本徹也 (1999) 「トコロの意味と機能に関する一考察」  
『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』26
- 小林賢次 (1996) 『日本語条件表現史の研究』ひつじ書房
- 小林千草 (1973) 「中世口語における原因・理由を表す条件句」『国語学』94  
——— (1994) 『中世のことばと資料』武蔵野書院
- 此島正年 (1966) 『国語助詞の研究』桜風社
- 阪倉篤義 (1958) 「条件表現の変遷」『国語学』33  
——— (1975) 『文章と表現』角川書店  
——— (1993) 『日本語表現の流れ』岩波書店
- 田窪行則 (1984) 「現代日本語の「場所」を表す名詞類について」『日本語・日本文化』12 (大阪外国語大学)  
——— (2006) 「日本語条件文とモダリティ」京都大学博士学位論文  
——— (2007) 「言語と論理」『共生への問い—グローバル化時代の人文学：京都大学文学部創立百周年記念論集：下』(紀平英作編) 京都大学学術出版会  
——— (2018) 「トコロの多義性を通じて見た言語、認知、論理」『言語研究』154
- 田窪行則・笹栗淳子 (2002) 「日本語条件文と認知的マッピング」『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』東京大学出版
- 西田絢子 (1980) 「端的・トコロデ・サカイ国語資料としての駿河御讓本江湖風月集抄 (1)」『東京成徳短大紀要』13
- ホッパー、P・J/E・C・トラウゴット (2003) 『文法化』(日野資成訳) 九州大学出版会
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文：条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 馬 紹華 (2019) 「中世後期の口語資料における「ところで」の意味用法」『日本語学論集』15
- 三浦さつき (2015) 「日本語中世後期資料のトコロデ—因果性への拡大を中心に—」 関西言語学会第40回大会 (2015.6.14) 発表ハンドアウト <https://independent.academia.edu/satsukimiura>  
——— (2016) 「青森県東津軽郡平内町の接続表現トゴデについての一報告—東津軽郡外ヶ浜町蟹田と比較して—」『日本語学論集』12  
——— (2016) 「形式名詞トコロによる接続表現の歴史的・方言学的研究」

(2016年3月東京大学人文社会系研究科提出修士学位論文)

宮地朝子 (2007) 「形式名詞の文法化」『日本語の構造変化と文法化』ひつじ書房

靱山洋介 (1989) 「現代日本語「トコロ」の意味的・統語的・文体的特徴」

「Litteratura」10 (名古屋工業大学外国語教室)

矢島正浩 (2013) 『上方・大阪語における条件表現の史的展開』笠間書院

吉田永弘 (2000) 「ホドニ小史—原因理由を表す用法の成立—」『国語学』51-3

李淑姫 (2000) 「キリシタン資料における原因・理由を表す接続形式—ホドニ・

ニヨッテ・トコロデを中心に—」『筑波日本語研究』5

—— (2002) 「『応永二十七年本論語抄』の因由形式の階層」『筑波日本語研究』7

B.Heine, Ulrike Claudi and Friederike Hünne Meyer (1991) From Cognition to Grammer - Evidence from African Languages *APPROCHES TO GRAMMATICALIZATION VOLUME1 FOCUN ON THE THEORETICAL AND METHODOLOGICAL ISSUES*, JOHN BESHING COMPANY AMSTERDAM/PHILADELPHIA.

## 付記

本論文は日本語学会2019年度秋季大会(於:東北大学)にて行った口頭発表を改編したものととなります。会場でご教示頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。